

# 人のとなりに

小林拓暉さん  
拓暉さん

日本の農業人口は減少傾向にあり、人手不足が問題となっています。今回は、2年前に新規就農者として農業を始めた若き農家の思いに寄り添います。



▲こばやしファーム  
Instagram

## 「人のとなり」とは…

文字通り、「その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てる目的としています。

## 農業に魅力を感じて

「高校生の時に農家である父の手伝いをしたことが今につながっている」と話すのは、2年前に新規就農者として東郷町で農業を始めた小林拓暉さん。新型コロナウイルス感染症により、行動が制限された高校時代、父の仕事である米作りを手伝ったといいます。

「手伝いをする」と、農産物の成長具合を直接観察することができたり、周りの方々が喜んでくれるのを見たりして農業に面白さを感じた。また、実家が農家だが、後継者が決まっていなかったので、自分がやってみようと思った」と話します。卒業後は農業大学校に進学し、農業の基礎や経営の基本を学んだり、資格を取得したりしたそうです。

### 納得いく野菜を育てるため

小林さんは主にネギ、ゴボウなどの野菜を栽培し、市内外の他、県内外に出荷しています。

「農業は自然相手の仕事。気候次第で野菜の生育に支障が出ることもある。それによって計画通りに出荷ができなかったり、納得できる野菜が育たなかったりすると難しさを感じる」と言います。また、機械トラブルの際にすぐに対応できなかつたり、

「農業の良いところは自分で計画を立てて進められ、それが直接収入につながること。予想以上の収穫量になるところです」

また、「農業の良いところは自分で計画を立てて進められ、それが直接収入につながること。予想以上の収穫量になるところです」と話します。



### これからの目標

「SNSを活用して、農業に関する情報発信に力をを入れたい。消費者の手に届くまでの様子を発信し、より良い農産物を安心して食べもらいたい」と今後の目標を話してくれました。

また、「自分の経験を基に、農業に興味がある人が農業に携わるやすい環境を作りたい」と農業に対する意気込みも聞くことができました。



し、効率よく作業ができるよう

に工夫している。学生時代に取り組んだりすると自分の知識不足を痛感することもあるそうですが、そんな時は、先輩でもある父親からアドバイスをもらいながら日々試行錯誤しているといいます。

そのため、収入につながつたと実感できるとやりがいを感じるそうです。

この施設は、平成31年4月に就農者の確保や育成を図る施設として、県から本市が譲り受け、令和6年9月に（公社）薩摩川内市農業公社に貸し付けを行い、本年4月に「薩摩川内アグリセンター」として開所しました。

この施設の利活用については、農業関係団体で構成する薩摩川内市新規就農者サポート協議会において、農業の担い手向けの研修事業を行っています。また、農作業体験や貸付農園なども行い、幅広く農業に触れることができる施設となっています。

## 農業に触れ合う 薩摩川内アグリセンター

この施設は、平成31年4月に就農者の確保や育成を図る施設として、県から本市が譲り受け、令和6年9月に（公社）薩摩川内市農業公社に貸し付けを行い、本年4月に「薩摩川内アグリセンター」として開所しました。

この施設の利活用については、農業関係団体で構成する薩摩川内市新規就農者サポート協議会において、農業の担い手向けの研修事業を行っています。また、農作業体験や貸付農園なども行い、幅広く農業に触れることができる施設となっています。

担当手の育成のための研修を行うことができます！

研修だけでなく、子どもたちが農作業体験をすることができます！

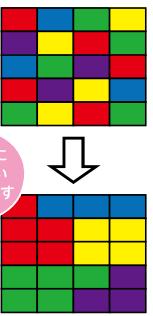
- ①担い手育成農業研修
- ②農業基礎研修(令和7年9月～)
- ③農作業体験

地域の担い手を目指して就農を計画している方に農業の座学や実地研修

農業を始めたい方や改めて農業の勉強を希望する方への農業の座学、実地研修

児童、園児を対象とした、作物の収穫や農作業の体験

※貸付農園(市民農園)は、令和9年より開園予定です。



農業者ごとにまとめて使いやすくなります！

詳しくは農業委員会(内線5624)へお問い合わせください。

## 農作業受託事業

高齢化が進む農家の負担を軽減することを目的に、労働力の補完や機械などへの過剰投資を抑制するために、公社で作業の請負などを行います。

問合先  
▼本庁農業政策課農政G  
(内線4222)  
▼薩摩川内アグリセンター  
(42)1880

◀市ホームページ

農業公社の効率的な運営を行うため	
①担い手育成農業研修	に、これまで入来支所および川内農業センターに分散していた農業公社事務所を本施設に集約し、農業の振興を図ります。
②農業基礎研修(令和7年9月～)	農業を始めたい方や改めて農業の勉強を希望する方への農業の座学、実地研修
③農作業体験	児童、園児を対象とした、作物の収穫や農作業の体験

農業者ごとにまとめて使いやすくなります！

詳しくは農業委員会(内線5624)へお問い合わせください。

## 農地中間管理事業

事業内容

①水稻やゴボウに関する農作業

②水稻苗箱の販売に関する事業

③穀の乾燥や調整に関する事業

④無人ヘリによる水稻防除の実施

⑤その他農作物に関する農作業受託

農地の貸し借り(売買)は、令和7年4月から原則として農地バンク経由になります。

それぞれの農地がバラバラに混在しているところを、農地バンクを経由することで農業者ごとにまとめて使いやすくなります。

詳しくは農業委員会(内線5624)へお問い合わせください。